

環境経営レポート

<2023年版>

活動期間：2023年1月1日～2023年12月31日

私たちは地元を愛し、生活環境の向上に努めると共に
事業活動と環境との調和を図り、より良い社会の実現を目指します



発行日：2024年2月28日



株式会社 小池組



SDGs
REGISTERED PARTNER
NAGANO PREFECTURAL
GOVERNMENT

環境経営レポート目次

1. 取組の対象組織・活動
2. 環境経営方針
3. 実施体制
4. 環境経営目標と実績
5. 環境経営実績および評価
6. 次年度環境経営目標及び環境経営計画
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無
8. 代表者による全体評価と見直しの結果
9. 非常事態の想定訓練の記録
10. 環境経営の活動事例

取組の対象組織・活動

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

事業所名 株式会社 小池組

代表取締役 小池 毅夫

(2) 所在地

本社 〒381-2406

長野県長野市信州新町里穂刈4番地1

倉庫 〒381-2405

長野県長野市信州新町新町神田沖

(3) 環境経営責任者及び担当者

責任者 代表取締役 小池 毅夫

担当者 工 事 部 飯島 拓也

総 務 部 小池 久美

連絡先 TEL : 026-262-2005

FAX : 026-262-3853

E-mail : koike@saturn.plala.or.jp

(4) 資本金 3,000万円 設立年月日 昭和32年5月22日

(5) 事業内容

* 特定建設業 【長野県知事許可 特-4 000989 令和4年5月21日更新】

土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業、解体工事業

* 産業廃棄物収集運搬 【長野県知事許可 2006131587
令和3年10月30日更新 有効期限令和8年10月29日】

①事業の範囲：収集運搬（積替保管を除く）する産業廃棄物

木くず、がれき類、ガラス・陶磁器くず、廃プラスチック類（いずれも特別管理産業廃棄物を除く）

②運搬車両の種類と台数 ダンプ11台

③処理実績 237.35トン

(6) 事業の規模

| 項 目 | 単 位 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 |
|-------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 売 上 高 | 百万円 | 643 | 542 | 613 | 594 | 569 | 1,304 | 2,954 | 801 |
| 従 業 員 | 人 | 32 | 32 | 30 | 30 | 36 | 40 | 45 | 42 |
| 延べ床面積 | m ² | 675 | 675 | 675 | 675 | 675 | 675 | 675 | 675 |

(7) 事業年度 1月1日～12月31日

(8) 社会貢献活動

事業所や各現場周辺の水路清掃、植樹帯整備、除雪作業、就業体験

環境経営方針

《 基本理念 》

良い仕事（知識、技術、態度）をして、地域社会に貢献する。

『地球の前にまず会社から

節電・節水・燃費向上・ゴミの分別

エコアクションで利益を上げよう！』

《 行動指針 》

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- ①電力、建設機械・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ②廃棄物の発生を抑制するとともに、リサイクルの促進と適正な処理
- ③再生資材の積極的活用
- ④環境に配慮した工法の選定と施工
- ⑤水資源の節水
- ⑥コピー用紙の削減
- ⑦本社周辺の排水路清掃・緑地管理、地元ボランティア活動への積極的参加
- ⑧化学物質の安全で適正な使用

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

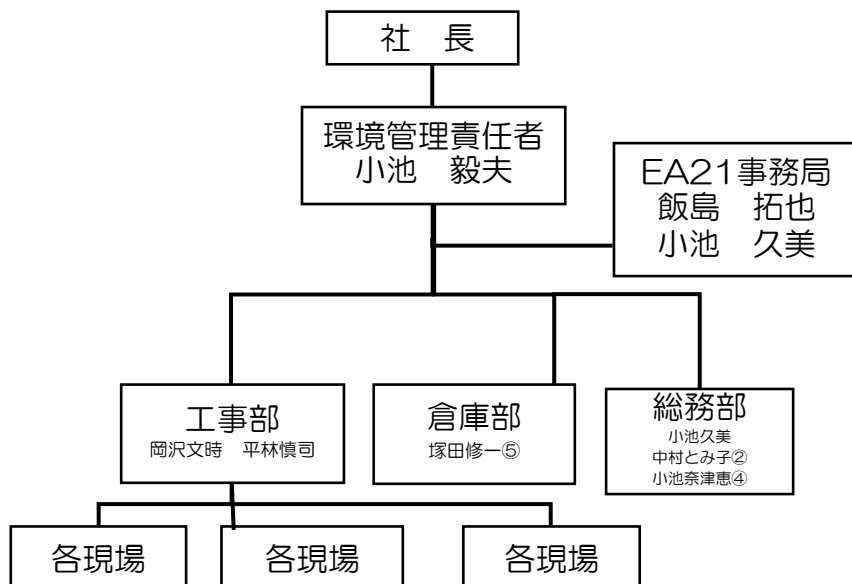
制定日：2017年 10月 13日

更新日：2020年 6月 11日

株式会社 小池組
代表取締役 小池毅夫

3. 実施体制

1) 当社のEA21を運用するための組織を次の通りとする。



作成日：2017年10月12日 ①
 更新日：2018年 6月19日 ②
 更新日：2019年 4月15日 ③
 更新日：2020年 6月11日 ④
 更新日：2022年10月 1日 ⑤

※各部門の環境責任者は部門長、各現場の環境責任者は工事責任者とする。

2) 責任及び権限

| | |
|-----------|---|
| 社長 | <ul style="list-style-type: none"> EA21に関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 EA21の実施及び管理に必要な資源を用意する。 環境方針の設定・見直し及び従業員へ伝達を行なう。 代表者による全体の評価と見直しを実施し、その改善を指示する。③ |
| 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> EA21を構築し、実施し、管理する。 環境への負荷及び取組の自己チェックを確認し、承認する。 法規制等の取りまとめを行い、遵守状況をチェックする。 環境目標を設定し、環境活動計画を確認し承認する。 環境活動の取組状況を確認し、環境目標の達成状況を評価する。 問題点の是正・予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行う。 環境活動の取組結果を代表者へ報告する。 |
| 部門長・工事責任者 | <ul style="list-style-type: none"> 自部門におけるEA21の実施及び環境方針の周知。 自部門の従業員に対する教育訓練の実施。 自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 特定された項目の手順書作成及び運用管理。 自部門で特定された緊急事態への対応手順書の作成及び訓練と記録。 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。 . . |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の事務局。 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェック原案の作成。 「環境関連法規等の取りまとめ／遵守チェック表」原案の作成。 環境目標・活動計画原案の作成。 環境活動実績集計。 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 |
| 全従業員 | <ul style="list-style-type: none"> 環境方針、環境目標を基本に定められた活動計画に従い活動に取り組む。 活動計画の提案 . . |

4. 環境経営目標と実績の推移

当社の環境経営方針に沿って、地球環境への影響評価の結果に基づき、以下の目標を設定して活動を推進しています。

第二期 環境経営

※上段計画、下段実績と評価

| 環境目標 | | 2016年 基準年 | 2022年度 | | 2023年度 | | 2024年度(目標) | | 2025年度(目標) | | |
|------|------------------------------|--------------|--------|--------|--------|--------|------------|--------|------------|--------|----|
| 1 | CO2排出量の削減 ※1 (ton-CO2) | 268 | 目標 | 252 | 6% | 249 | 7% | 247 | 8% | 244 | 9% |
| | | | 実績 | 354 | × | 272 | × | | | | |
| 2 | 電気使用量の削減 (kwh) | 23,316 | 目標 | 21,917 | 6% | 21,684 | 7% | 21,451 | 8% | 21,218 | 9% |
| | | | 実績 | 32,235 | × | 39,206 | × | | | | |
| 3 | 燃料使用量の削減 (ℓ/百万円) | 158 | 目標 | 148 | 6% | 147 | 7% | 145 | 8% | 143 | 9% |
| | | | 実績 | 41 | ○ | 122 | ○ | | | | |
| 4 | 水使用量の削減 (m ³) | 282 | 計画 | 265 | 6% | 262 | 7% | 259 | 8% | 257 | 9% |
| | | | 実績 | 229 | ○ | 258 | ○ | | | | |
| 5 | 化学物質の削減 (kg) | 132 | 計画 | 124 | 6% | 123 | 7% | 121 | 8% | 120 | 9% |
| | | | 実績 | 0 | ○ | 0 | ○ | | | | |
| 6 | 一般廃棄物の削減 (kg/年) | 1,035 | 計画 | 973 | 6% | 963 | 7% | 952 | 8% | 942 | 9% |
| | | | 実績 | 1672 | × | 942 | ○ | | | | |
| 7 | 産業廃棄物の削減 (ton/百万円) | 7.1 | 計画 | 6.7 | 6% | 6.6 | 7% | 6.6 | 8% | 6.5 | 9% |
| | | | 実績 | 0.6 | ○ | 2.4 | ○ | | | | |
| 8 | 地域社会の環境保全 と調和を図る (件) | 5 | 計画 | 4 | | 4 | | 4 | | 4 | |
| | | | 実績 | 4 | ○ | 4 | ○ | | | | |

※1 CO2排出量、燃料使用量、電気量の削減が達成できなかったのは災害復旧工事の対応に伴うものと考えられる。

※2 一般廃棄物の増加は、職場環境の改善・3S活動の推進により事務所内から不用品が大量に廃棄された為である。

※3 CO2排出量算出基準
 $(\text{使用化石燃料}) \times \text{排出係数} + \text{購入電力} \times \text{CO}_2 \text{排出係数}$ (0.485kg-CO₂/kWh)
 (2016年度調整後排出係数 中部電力)

5. 活動の結果と評価、次年度の取組

◎よくできた ○まあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

| | 活動計画 | 取組の結果 | 評価 | 次年度の取組 |
|------------|---|--|----------------------------|---|
| 二酸化炭素排出量削減 | ①電力削減 <ul style="list-style-type: none"> エアコンの温度設定冷房 26度、暖房20度 待機電気機器のスイッチ節電 昼休みの60分間消灯 余分な照明の消灯 省エネタイプの蛍光灯への切り替え 太陽光発電システムの活用 | 照明器具のLED照明への切り替えがほぼ完了した。改修工事をしたトイレの照明を人感センサータイプにした。空気清浄機と加湿器が一体化した製品を購入した。太陽光発電システムを有効活用できた。 | ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ | 今後もスイッチ節電の徹底をはかり省エネ機器への切替は現状の機器の消耗時に行う。不在時の消灯を徹底する。太陽光発電の更なる有効活用を目指す。 |
| | ②車両燃料の削減 <ul style="list-style-type: none"> エコドライブ10の実施 重機不使用時のエンジン停止の徹底 低燃費車優先使用 ハイブリッド車の購入 | 低燃費のチルトローターとスライドアームを購入した。現場での使用車両の増加等で燃料の使用量は増加となった。ハイブリッド車の購入はなかった。 | ○ ○ ◎ ◎ | 今後も継続してエコドライブに関する教育訓練の機会を増やしていきたい。ハイブリッド車の購入。 |
| 廃棄物排出量削減 | ①事業系一般廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> 書類作成時(1枚ベスト/2枚ベター)指導 両面コピー、裏紙使用、枚数削減 LINE WORKSの活用 ハーモス勤怠の活用 | LINE WORKSを活用して配布物の削減ができた。勤怠管理のDX化により、給与明細書や各種申請書、日報などを電子化できたため、紙媒体の書類を削減できた。 | ◎ ◎ ◎ | DX化を図り、紙媒体から電子化をしていく。クラウドを導入して、更に紙の書類や配布物等を削減していく。 |
| | ②工事現場での産業廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> 資材置き場での定置・定量化を推進 余剰資材の活用(余剰品登録) 分別徹底とリサイクル 環境配慮工法の選定と施工 再生資源の積極的活用 | アスファルト、コンクリートは100%再生処理とし、リサイクルを徹底できた。 | ◎ ◎ ○ ○ ○ | アスファルト、コンクリートは100%再生処理とし、リサイクルの徹底を継続。5S活動を通して、ゴミの分別の徹底を更に強化していく。 |
| 水使用量 | ①節水活動 <ul style="list-style-type: none"> 節水ラベル貼付 漏水の定期的な点検 | 節水を心掛け、洗車や清掃などで井戸水を積極的に利用できた。 | ◎ ○ | 井戸水を積極的に利用し、更に環境整備にも活用していく。 |
| その他の活動 | <ul style="list-style-type: none"> パンフレットの整備と営業担当の教育 環境保全活動の推進 | 環境配慮の製品提案、工事の提供を実施。会社周辺の緑地活動を実施した。 | ○ ○ | 今後も顧客の要望に環境配慮型製品を提案する。 |

6. 次年度環境経営目標及び環境経営計画

| | 目標値 | 計画 | 担当者 |
|------------|-------------------|---|-----|
| 二酸化炭素排出量削減 | 21,684Kwh | ①電力削減 <ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの温度設定冷房 26度、暖房20度 ・待機電気機器のスイッチ節電 ・昼休みの60分間消灯 ・余分な照明の消灯 ・省エネタイプの蛍光灯への切り替え ・太陽光発電システムの活用 | 小池久 |
| | 147ℓ/百万円 | ②車両燃料の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ10の実施・教育訓練の機会を増や ・重機不使用時のエンジン停止の徹底 ・低燃費車優先使用 ・ハイブリッド車の購入 | 小池久 |
| 廃棄物排出量削減 | 963Kg/年 | ①事業系一般廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・書類作成時(1枚ベスト/2枚ベター)指導 ・両面コピー、裏紙使用、枚数削減 ・LINE WORKSの活用 | 小池久 |
| | 6.6ton/百万円 | ②工事現場での産業廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・資材置き場での定置・定量化を推進 ・余剰資材の活用(余剰品登録) ・分別徹底とリサイクル ・環境配慮工法の選定と施工 ・再生資源の積極的活用 | 岡沢 |
| 水使用量 | 262m ³ | ①節水活動 <ul style="list-style-type: none"> ・節水ラベル貼付 ・漏水の定期的な点検 | 小池久 |
| その他の活動 | | <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの整備と営業担当の教育 ・国道の植栽の緑地化 ・家庭ごみを再利用したウエスの活用 ・残業時間の削減 ・人材の育成と定着 | 小池久 |

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 当社に適用される法規制等と現在までの遵守状況

当社の業務に適用となる義務規定（一部それ以外を含む。）の主な環境関連法規等とその主な内容、適用対象等は、次の表のとおりです。

注）チェック欄…○：遵守 ×：不遵守 ✓：該当なし確認 （―：判断なし）

| No | 主な環境関連法規等 | 主な内容、適用対象等 | 確認 |
|----|---|---|----|
| 1 | 建設リサイクル法 | ○対象建設工事受注者として、分別解体・再資源化等 | ○ |
| 2 | 建設副産物適正処理推進要綱 (平成14年5月 国土交通省) | ○建設発生土と建設廃棄物の適正な処理等に係る総合的な対策を適切に実施するための基準 | ○ |
| 3 | 大気汚染防止法 | ○特定粉じん（アスベスト）規制,同排出等作業 | - |
| 4 | フロン排出抑制法 | ○第1種特定製品…業務用エアコン（本社） ○解体工事元請業者として、対象製品の有無確認と説明 | ○ |
| 5 | オフロード法 | ○基準適合表示等が付された特定特殊自動車の使用 | ○ |
| 6 | 排出ガス対策型建設機械指定制度 | ○排出ガス基準値を満たした建設機械の使用 | ○ |
| 7 | 騒音規制法 | ○指定地域における特定建設作業 | ○ |
| 8 | 振動規制法 | | ○ |
| 9 | 低騒音型・低振動型建設機械指定制度（国土交通省） | ○騒音・振動が相当程度軽減された建設機械の使用 | ○ |
| 10 | 化管法（PRTR法） | ○指定化学物質等の性状及び取扱い、情報提供 | ○ |
| 11 | 労働安全衛生法 | ○労働者の健康の確保【ここでは主に労働衛生】 | ○ |
| 12 | ○廃棄物処理法 ○廃棄物の適正な処理の確保に関する条例〈長野県/長野市〉 | ○一般廃棄物の処理 ○産業廃棄物の処理 | ○ |
| 13 | ○消防法/長野市火災予防条例 | ○指定数量未満の危険物（屋外タンク、など） | ○ |
| 14 | 水質汚濁防止法 | ○貯油施設（屋外タンク、等）の事故時の措置 | ○ |
| 15 | 浄化槽法 | ○浄化槽 | ○ |
| 16 | 自動車リサイクル法 | ○使用済自動車 | ○ |
| 17 | PCB処理特別処理法 | ○解体工事時、PCB使用製品（材）・廃棄物の確認 | ○ |
| 18 | 長野県公共事業等環境配慮推進要綱 | ○長野県が実施する公共事業等の計画及び実施に当たっての環境配慮の推進 | ○ |
| 19 | 長野市公害防止条例 | ○公害の防止 | ○ |
| 20 | 工事現場等当該地域における環境保全に関する条例、等 | ○環境の保全 | ○ |

(2) 違反、訴訟等

法規等については最新のものとなるように確認しており、その遵守状況について確認・評価した結果はチェック欄のとおりです。

尚、過去3年間行政機関や住民の皆様等からご指摘・苦情・訴訟等はありませんでした。

8. 経営者の見直し

2023年は結果が出た年だったが、同時に問題点も浮き彫りとなった。まず、結果としては、7月に関東地方整備局、長野国道事務所から計8件の表彰を受けた。高評価を得た2022年度の現場は大変過酷な労働条件だったが、素晴らしい結果を残すことにつながった。

だが、その一方で過酷な労働条件下でハラスメント問題が発生することとなってしまった。そのため、外部講師による再発防止のための研修を社員全員参加で3回実施。更にハラスメント対策の仕組みづくりとして、11月に会社を組織化した。ハラスメント委員会を設置。

組織化に併せて、エコアクションの組織も見直し予定である。

人材採用チームを発足させ、新卒採用予定者1名と中途採用9名を採用でき、大きな成果を得た。社員の平均年齢も48歳と5年前の52歳から4歳若返った。

その反面、年間事故発生件数が30件と大幅に増加し、現場の生産能力も低下している。原因としては、社員の経験不足が挙げられる。したがって、この点が2024年の改善すべき大きなポイントとなる。

5月には研修として、幕張メッセで開催された次世代生産性向上展を見学。参加者21名がそれぞれのチームに分かれて会場に行き、最新技術に実際に触れ、体験し、後日自社において研修の報告会を行った。この研修によって、当社が積極的に設備投資している理由を理解してもらう事ができた。

また、それらの全てが環境配慮に通じる事を学び、自社の社会貢献度も理解する機会となった。

2024年4月から施行される建設業の時間外労働の上限規制に向けた対応について、新建新聞社の取材を受けた。取材後11月25日発行の新建新聞の一面に当社の記事が大きく掲載された（別紙参照）。5年間掛けて取り組んできた働き方改革の方向性に間違いは無いことを実感し、自社の経営方針に自信がついた。

・設備投資内容 2023年

- 1) バックホウの購入 2台（チルトローテーター、ロングアーム）
- 2) 照明機材 5台（LED）

・本社環境改善 2023年

- 1) 本社 1・2F男子トイレ、1F女子トイレ。中2階 技術者の書庫。

◎ 2024年に向けて

二酸化炭素排出量、電気量等、各種基本目標数値を2023年を基準年として算出し、2024年から運用する。

時代が大変目まぐるしく変わり、懸案事項がたくさんあるが、自社の将来と発展を見据えた経営方針を大きく掲げ、経営者自ら勉強する。

懸案事項

- | | |
|------------|----------------|
| 1) 人の問題 | 人材不足、社員の経験不足 |
| 2) 仕事の問題 | 事故件数の増加、生産力の低下 |
| 3) 経営の問題 | 経理DX化、月次決算の開催 |
| 4) 職場の環境改善 | 資機材費の高騰 |

上記懸案事項を単体で考えることなく、現場経営、環境経営、健康経営の3つの柱で柔軟に対応していく。最優先すべきは人手不足の解消。危機感を持って、人材確保の対策を講じていく。

9. 非常事態の想定訓練の記録

○雨量規制訓練 2023.5.31

弊社では、長野国道管内信州新町出張所管内維持工事を担当しており、国道19号の長野市信州新町日名～長野市信州新町大原間では、連続雨量が130mmを超えた場合、道路利用者の安全を確保するため、通行止めを行っている。

長野国道事務所主催の雨量規制訓練に合同で参加し、有事に備えている。



○コロナ対応訓練 2023.5.10

コロナは収束してきたが、それでも年間2・3人はコロナに罹る社員がいる。

コロナ発症時の対応について、忘れない様、手順書の確認を行った。



10. 活動事例 1)

- 本社周辺の清掃等 2~3回/年実施。会社廻り周りの環境美化に貢献。



- 中学校資源回収 1回/年、中学校の資源回収に参加し企業ごみ削減に貢献。



- 除雪作業 行政で除雪を行わない生活道路の除雪作業を行い、地域貢献に努めています。



10. 活動事例 2)

・建設測量生産性向上展への参加

千葉県で開催された建設測量生産性向上展に現場代理人を中心に参加した。

今後の建設業・測量業の方向性を幹部で共有し、生産性を上げて環境に貢献したい。



・新規建設機械の導入

新規重機等の購入時は、低燃費型を必ず選択することにより、軽油の年間使用料の削減に貢献している。



10. 活動事例 3)

・地域貢献

地元中学校からの依頼で、グラウンドの整備や田んぼの製作を行いました。また、小川村主催の薬師沢石張水路工周辺の除草作業に参加し、国登録有形文化財の維持管理にも貢献しました。



・職場体験・インターンシップ

高校生以上を中心に職場体験学習・インターンシップの受け入れを行っています。現場見学や実技訓練を通して建設業の魅力を伝えつつ、働くことの楽しさや厳しさ・やりがいなどを少しでも感じ取ってもらい、就職先の一つとして建設業を選んでもらえるきっかけを支援しています。



10. 活動事例 4)

・生産性向上

除草作業で行う集草の際に使用する車両として、パッカー車を購入した。従来は4tユニック2台、2tダンプ2台で集草を行っていたが、パッカー車1台になったことにより軽油使用量削減に貢献している。



・生産性向上

土工事で使用する重機を主にチルトローテーター付バックホウを選定することにより、掘削・整地・整形作業の作業効率を上げ、工期短縮に努めることで軽油使用量を削減しCO2削減に貢献している。



・職場環境改善

本社1Fと2Fの男子トイレの改修を行った。自動開閉式トイレ・人感センサー照明にすることで、消費電力と水道使用量の削減に貢献している。

